

地域林政対談

イン 阿蘇

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第二十三弾は、阿蘇市の佐藤義興市長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



阿蘇五岳

(林業の活性化について)

阿蘇市経済部長 阿蘇地域では草原の野焼きが行われているが、スギやヒノキの針葉樹林は火が付きやすいことから、草原に接している山林について、防火樹林帯として広葉樹に転換できないかと考えている。また、野焼きの前に防火帯の確保として輪地切りを行っているが、輪地切りの総延長が非常に長くなっていることから、草地と植林地が入り組んでいる部分を一直線にして延長を縮小したいと考えている。担い手の高齢化も進んでいる中で、試験的に取り組んでいきたい。

阿蘇市長 労働力の維持が難しい中で、将来にわたって阿蘇の草原を維持管理していくため、野焼きを効率的に行っていくたいと考えている。



佐藤義興 阿蘇市長

九州森林管理局長 新たな森林管理システムは、森林管理を適切にやっていくために、森林所有者の意向調査を実施し、林業経営に適した森林と適さない森林に分けて、林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営者に委ねていくものである。所有者不明の森林についても、一定の探索や公告を行うことで権利を設定して管理できるようになった。森林環境譲与税（仮称）も活用して、地域の実情を踏まえて経営管理の対象となる森林を集積・集約化する中で、草原管理との関係も含めて、阿蘇の土地利用をどうしていくのかという調整に役立ててもらおうとよいのではないか。

熊本県阿蘇地域振興局林務課長 阿蘇市では、県の事業を活用され、手野地区において、市と林業事業体とで協議会を作って、集約化に取り組まれているが、それが森林環境譲与税の使途の対象になるのではないかと考えている。集約化により様々な成果が出てきているところであり、森林環境譲与税もいろいろな波及効果が期待できるのではないかと考えている。

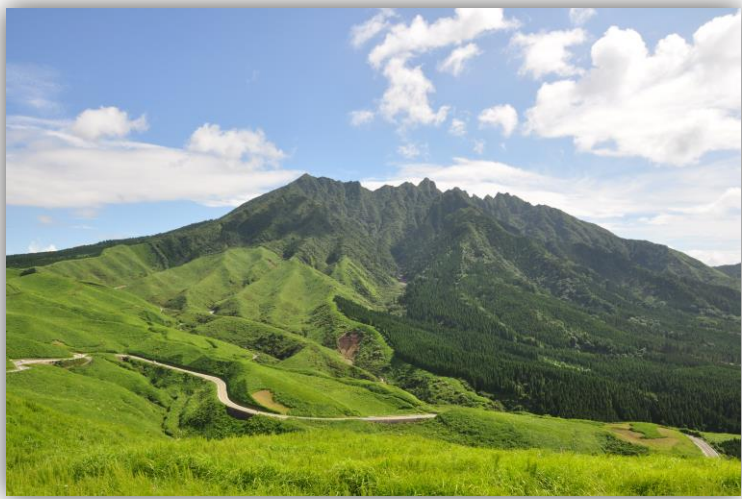
市長 そのように特定の地域を指定して、行政も支援しながらモデル地区として実際にやってみて関係者の理解を広げていくということが必要である。

経済部長 森林環境譲与税の活用等については、今後、市が検討していかなければならないが、市役所には専門的技術者が少なく、支援をお願いしたい。

市長 森林環境譲与税は徐々に譲与額が増加していく仕組みであり、導入当初が一番重要である。長期的な考えを持ってしっかりと政策を考えていかなければならない。また、継続的にやっていくためには、自治体の中で、森林に関する専門性のある職員を育てていくことが必要である。

局長 森林環境譲与税と県の水とみどりの森づくり税を合わせて、仕組みの面であったり、人材面であったり、長期的な視点で考えていただけるとありがたい。市町村の体制支援については、地域林政アドバイザーへの特別交付税措置が活用可能であり、検討いただきたい。森林管理局としても職員OBの人材活用など協力するとともに、新しい仕組みがうまく回っていくように、県、市町村と一緒に成果を出していきたい。

市長 山間部は人口が減少し過疎化が進んでいる。森林は水の涵養において一番大切なところであり、市町村がしっかりと取り組んでいかなければならない。



箱石峠から望む阿蘇の草原と根子岳

地域林政対談 イン 阿蘇

平成30年7月25日(水) 10:30~12:00

阿蘇市役所 応接室

出席者(敬称略)

○阿蘇市

佐藤 義興 市長

吉良 玲二 経済部長

○熊本県 阿蘇地域振興局

大和 一浩 林務課長

森本 隆之 山地災害対策課長

○林野庁 九州森林管理局

原田 隆行 局長

森 勇二 熊本森林管理署長

勝沼 太志 企画調整課長

